

広島県の休日夜間急患
センターにおける変化

広島国際大学

江原朗



日本小児科学会 COI 開示

発表者名： 江原 朗

日本小児科学会の定める利益相反に関する
開示事項はありません

江原 朗

広島国際大学医療経営学科



- 1987年北海道大学医学部卒
- 1991年北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（生化学）
- 1991年北大小児科入局
- 以後、市立札幌病院、札幌厚生病院、市立小樽病院、函館中央病院、王子総合病院、小樽市保健所を経て
- 2011年広島国際大学医療経営学科教授

背景

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行によって小児科の受診が減少していると診療報酬点数の減少から報告されている。
- しかし、受診動向がどう変化したのか十分な知見がない。
- 今回は、急患センター受診に加えて健診・予防接種にも言及

方法（休日夜間の受診者数）

- 広島県内**16**か所の休日夜間急患センターに対してアンケート調査
- 小児の受診者, 二次搬送または入院者について**2020**年上半期と**2018・2019**年上半期の各月（**1**月～**6**月）の平均値を比較した。

方法（乳幼児健診・予防接種）

- 乳幼児健診・予防接種

(4混, MR, BCG)

- 広島県内**23**市町へのアンケート
- 未回答：情報公開条例・開示請求
- 予防接種（定期予防接種すべて）
 - 広島県内の**23**郡市医師会およびその支部**7**か所の合計**30**か所にアンケート調査票発送

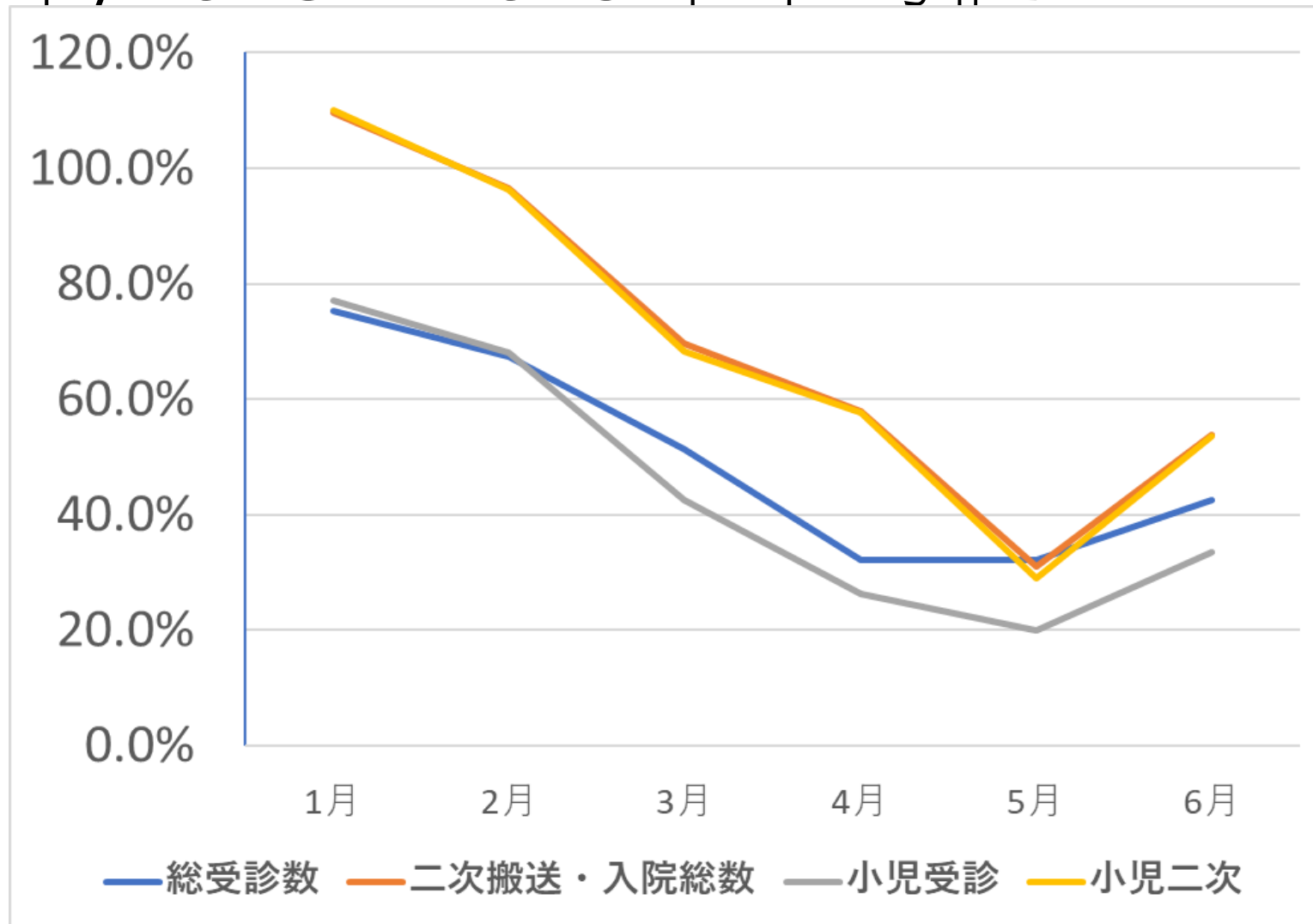
結果（休日夜間急患センター）

- 2020年上半期の受診者数，二次搬送または入院者数は，過去2年上半期よりも減少していた。
- 特に，5月の受診者数，二次搬送または入院者数は過去2年の5月のそのの**19.8%**，**28.9%**にまで低下した。

広島県内の休日夜間急患センター における小児受診者.

項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月
受診数						
(A) 2018・2019年平均値	8,072	5,464	4,210	4,465	5,124	3,924
(B) 2020年値	6,227	3,712	1,785	1,170	1,017	1,311
B/A	77.1%	67.9%	42.4%	26.2%	19.8%	33.4%
二次搬送・入院数						
(C) 2018・2019年平均値	965	772	905	1,012	1,064	933
(D) 2020年値	1,061	743	618	584	307	499
D/C	109.9%	96.2%	68.3%	57.7%	28.9%	53.5%

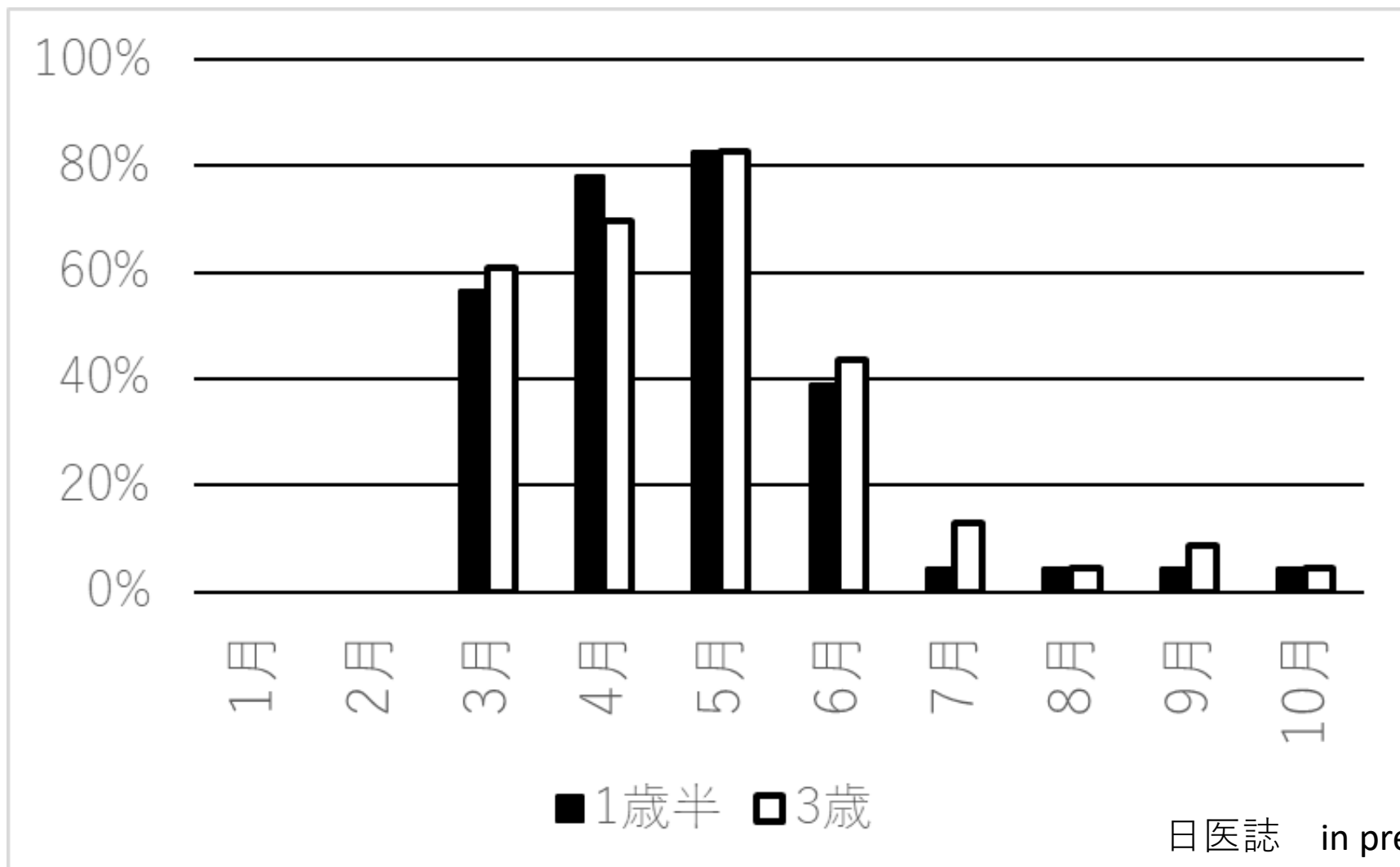
休日夜間急患センター受診者 2020年/2018・2019年平均値



結果（乳幼児健診）

- 回収率：100%
- 全23市町：乳幼児健診は集団健診
- 2020年3-5月：過半数の市町が1回以上
中止
- 21市町における2020年1-6月の受診者数
前年比（2市受診者数未回答）
 - 1歳半健診：55%
 - 3歳 健診：52%

2020年乳幼児健診中止市町割合 (広島県内)



結果（広島県23市町,4混,MR,BCG）

- 回収率**100%**
- 全ての市町：個別接種
- 2020年4－5月：4種混合，MR（麻しん風疹），BCGの接種者数は前年同期と有意差なし。
- 2019年12月－2020年7月の人口調整後の合計接種者数は，前年比で大きな差異を認めず
 - 4種混合1期**102.0%**，MR**100.7%**，BCG**100.1%**

2か月ごとの接種者数（市町）

（小児人口比は2019年/2020年値）

	前12月-1月	2月-3月	4月-5月	6月-7月	合計
4種混合(1期1-3回・1期追加合計)					
A) 2018年12月-2019年7月	13,731	14,085	13,891	13,857	55,564
B) 2019年12月- 2020年7月	13,467	13,597	13,715	13,990	54,769
C) 0-4歳人口比	1.03	1.03	1.03	1.03	1.03
D) B×C	13,935	14,069	14,192	14,476	56,672
D/A	101.5%	<u>99.9%</u>	102.2%	<u>104.5%</u>	102.0%
麻疹風疹(1期・2期合計)					
E) 2018年12月-2019年7月	5,084	6,798	8,743	9,245	29,870
F) 2019年12月- 2020年7月	5,194	6,314	8,556	9,309	29,373
G)(0-4歳人口比+5-9歳人口比)÷2	1.02	1.02	1.02	1.02	1.02
H) F×G	5,320	6,467	8,763	9,535	30,085
H/E	<u>104.6%</u>	<u>95.1%</u>	100.2%	<u>103.1%</u>	100.7%
BCG					
I) 2018年12月-2019年7月	3,645	3,571	3,456	3,481	14,153
J) 2019年12月- 2020年7月	3,448	3,349	3,454	3,435	13,686
K)0-4歳人口比	1.03	1.03	1.03	1.03	1.03
L) J×K	3,568	3,465	3,574	3,554	14,162
L/I	97.9%	97.0%	103.4%	102.1%	100.1%

定期接種すべての接種者数 (郡市医師会：回収率56.5%)

	12-1月	2-3月	4-5月	6-7月	合計(12-7月)		12-1月	2-3月	4-5月	6-7月	合計(12-7月)
4種混合						水痘					
A) 2018年12月-2019年7月	8,875	9,079	9,095	9,175	36,224	M) 2018年12月-2019年7月	4,505	4,626	4,250	4,556	17,937
B) 2019年12月-2020年7月	8,748	8,793	9,080	9,136	35,757	N) 2019年12月-2020年7月	4,596	4,251	4,479	4,896	18,222
C) B×小児人口比	9,006	9,053	9,348	9,406	36,813	O) N×小児人口比	4,732	4,376	4,611	5,041	18,760
C/A	101%	100%	103%	103%	102%	O/M	105%	95%*	108%*	111%*	105%
日本脳炎						B型肝炎					
D) 2018年12月-2019年7月	8,519	10,414	11,800	12,302	43,035	P) 2018年12月-2019年7月	6,531	6,567	6,691	6,527	26,316
E) 2019年12月-2020年7月	7,955	9,983	11,305	12,579	41,827	Q) 2019年12月-2020年7月	6,511	6,427	6,376	6,593	25,907
F) E×小児人口比	8,158	10,243	11,594	12,900	42,895	R) Q×小児人口比	6,703	6,617	6,564	6,788	26,672
F/D	96%*	98%	98%	105%*	100%	R/P	103%	101%	98%*	104%	101%
Hib						麻疹風疹					
G) 2018年12月-2019年7月	8,898	8,920	8,825	8,865	35,508	S) 2018年12月-2019年7月	3,250	4,194	5,458	5,818	18,720
H) 2019年12月-2020年7月	8,661	7,661	9,302	9,103	34,727	T) 2019年12月-2020年7月	3,273	3,981	5,393	5,740	18,387
I) H×小児人口比	8,917	7,887	9,577	9,372	35,753	U) T×小児人口比	3,344	4,067	5,509	5,864	18,784
I/G	100%	88%*	109%*	106%*	101%	U/S	103%	97%	101%	101%	100%
肺炎球菌						BCG					
J) 2018年12月-2019年7月	8,893	8,933	8,870	8,884	35,580	V) 2018年12月-2019年7月	2,351	2,268	2,258	2,283	9,160
K) 2019年12月-2020年7月	8,821	8,554	8,666	8,853	34,894	W) 2019年12月-2020年7月	2,245	2,197	2,250	2,291	8,983
L) K×小児人口比	9,081	8,807	8,922	9,114	35,924	X) W×小児人口比	2,311	2,262	2,316	2,359	9,248
L/J	102%	99%	101%	103%	101%	X/V	98%	100%	103%	103%	101%

結論

- 2020年上半期には広島県内の休日夜間急患センターの受診者数、二次搬送や入院者数は激減。
- 2020年上半期に広島県内の多くの市町で乳幼児健診中止。
- 乳幼児健診受診者数減少→発達の遅れや虐待を見逃す危険。
- 定期予防接種では接種者数に大きな変化なし。
- 小児医療・保健に関する保護者の悩み・相談事に対して、オンライン等により対応するシステムを早急に整備すべき。